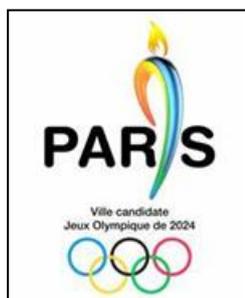


オリンピックを考える

校長 相川 保 敏



子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきます。いろいろな体験活動や探究活動に取り組む絶好の機会ですが、今年は夏の大きなイベントとして「パリオリンピック・パラリンピック」が開催されます。4年に一度ですので、多感なこの時期にぜひ「オリンピック・パラリンピック」を親子でじっくり観戦していただきたいと思います。オリンピックは7月26日～8月11日までの17日間、パラリンピックは8月28日～9月8日までの12日間開催されます。特に、オリンピックは夏休みのど真ん中に位置づきますので、夏休みの自由研究や日記のネタにうってつけだと思います。

オリンピックの観戦に先だって、お子様の興味・関心を高めるために、親子でメダル予想をしたり、種目のルールを調べたりするのもよいと思います。例えば、金メダルの期待が高い女子やり投げですが、やりの重さや長さをご存じでしょうか。重さは女子で600～625g、長さは2m20cm～2m30cmと決められています。長さを自宅のクローゼットの高さと比較したり、500mlのペットボトルを持って重さを体感したりすることで、アスリートのすごさを実感するかもしれません。ちなみに砲丸の重さは、女子でも4kg、2Lのペットボトル2本分を肩に担いで投げることになります。そして、22m63cm（世界記録）も飛ばすことになります。

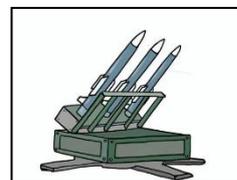
また、マラソン選手のスピードと自分のスピードと比べてみるのも面白いです。女子の世界記録は42.195kmを2時間14分4秒で走ります。50m走だと何秒で走ることになるのでしょうか。親子で計算するのも面白いですね。算数の活用にもなります。陸上競技だけでも、競歩のスピードで走ってみる、ハードルがどれくらい高いのかなどなど、調べてみる、試してみると深い探究につながっていきます。

参考（日本陸上競技連盟公式サイト・陸上競技ガイド <https://www.jaaf.or.jp/guide/rule/>）

この他にも、新種目について調べたり、東京オリンピックにはあったのになくなってしまった種目について

調べたりすることもよいと思います。新種目になるにはどんな条件が必要なのか、除外された種目にはどんなものがあるのかなど、興味が尽きません。ちなみに、過去に除外された種目に「綱引き」がありました。綱引きは、1900年のパリオリンピック大会から始まり、1920年のアントワープオリンピックを最後に廃止されました。綱引きはルールが分かりやすく、競技としてもシンプルで人気の競技だったそうです。しかし、国際オリンピック委員会（IOC）が「競技の国際組織を持つ競技を採用する」という方針を出したため、国際組織がない綱引きは、種目から外れることとなったようです。オリンピック競技とともにパラリンピック競技について調べたり、それぞれの歴史や意義について調べたりすることもよいと思います。

一方で、平和の祭典と呼ばれるオリンピックですが、紛争や戦争の影が忍び寄ります。ウクライナ政府によるとロシアによる軍事侵攻以降、選手やコーチなど少なくとも450人以上が死亡、練習場や合宿所といった500以上の施設が破壊されたそうです。そして、ロシアとその同盟国・ベラルーシの国籍を持つ選手の参加が条件付きで認められたことを受けて、ボイコットも検討されたようです。また、パレスチナオリンピック委員会は、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が始まった昨年10月以降、これまでに300人を超えるアスリートや審判員などが死亡したことを明らかにしました。全身全霊をかけてオリンピック出場を目指した人たちの夢を砕く現実があることも知っておく必要があります。ロシア、ベラルーシの選手も国旗や国歌を使用しない「中立な個人資格の選手」40名のみ参加が許され、多くの選手はオリンピックに参加できません。思い起こせば、日本もソ連のアフガニスタン侵攻に対し1980年のモスクワ大会をボイコットしました。多くの選手が悔し涙を流した経験があります。



全世界の人々すべてが、文字通り「平和の祭典」に参加できるようになることを強く願います。